# EQUUS

[エクウス]

Being with Horses,
Living with new Thought

馬と乗馬のすべて!

October
2013_NO.27
10月号
定価
¥1,000
(本体価格¥952)

vol.1
新連載
馬術界「イイ男」列伝
ポロ界の「神」と呼ばれた男
アドルフォ
カンピアッソ

Enjoying Ride & Refining Beauty

ショートトリップでキレイを磨く

## 美と癒しの韓国乗馬

in Korea

The Grate Horse Riding in World Heritage Turkey

カッパドキアとボドルムを巡る

## トルコ馬紀行

ブーツで変わる乗馬の脚前

徹底検証
ライディングブーツのすべて

優美なる欧州競馬の世界

ロンジン ディアヌ賞&ロイヤルアスコット

第30回全日本ジュニア馬場馬術大会
第37回全日本ジュニア障害馬術大会

# 未来に羽ばたく ヤングライダーの夏

## 第30回全日本ジュニア馬場馬術大会 第37回全日本ジュニア障害馬術大会

全国のジュニアライダーの頂点を決める、全日本ジュニア馬場馬術&障害馬術大会。
ヤング、ジュニア、チルドレンの各選手権のうち、ヤングライダー選手権の優勝者には、
日本オリンピック委員会(JOC)ジュニアオリンピックカップも贈られる。
今年は馬場馬術と障害馬術両大会におけるヤングライダー達の夏の熱戦を追った。

photos: Kenny Yokota, text: Mayo Masuoka(本誌),design: DynamiteBrothersSyndicate

## 第30回 全日本ジュニア 馬場馬術大会 ヤングライダー選手権

*Dressage*

### 女性ライダーが上位を独占

静岡県の御殿場市馬術・スポーツセンターで開催された、第30回全日本ジュニア馬場馬術大会。7月14、15日に行われたヤングライダー選手権には、16人馬が出場した。1日目の規定演技では、2頭で出場した高田茉莉亜選手（アイリッシュアラン乗馬学校）が1位と2位を独占。リカルドとのペアでは65パーセント台をマークした。

2日目の決勝（自由演技）には10人馬が参戦した。最後に出場した高田茉莉亜選手は緊張した様子はあったものの、落ち着いた演技を披露。得点率合計132.556、2競技ともに1位という輝かしい成績で見事初優勝を手にした。

晴れやかな笑顔で表彰台に立つ上位入賞者たち。©UPP

ALL JAPAN JUNIOR 1st

### 高田茉莉亜&リカルド

（アイリッシュアラン乗馬学校）

*Maria Takeda*

ヤングライダー選手権で栄冠を手にした高田茉莉亜選手は、2年前とその前年のジュニアライダー選手権優勝者でもある。昨年はグレードを上げてヤングに挑戦したが、成績は振るわなかった。「今年こそは」と意気込んで競技に挑み、昨年の雪辱を果たした。

1日目は1位と2位を独占したが、競技後は悔し涙を流したと言う。「1位を獲ったリカルドで、駈歩で何カ所かミスをしてしまいました。2頭目のランドトリーシアでは同じようなミスはしなかったけれど、全体的なペースがあまり良くありませんでした」

昨年のヤング選手権では1日目のミスを引きずってしまい、決勝では思うように練習の成果を出すことができなかった。今年はミスがあっても気持ちを切り替えて、1日目の競技で疲れている馬をフォローしようと気持ちを奮い立たせた。

ともに決勝に挑んだリカルドとは、昨年からコンビを組んで競技会に出場している。「リカルドは少し神経質で敏感な面があるので、乗り始めの頃は苦労していましたが、少しずつ練習の成果が見られるようになってきましたね」と高田選手を指導する馬場馬術選手の林伸伍氏は話す。

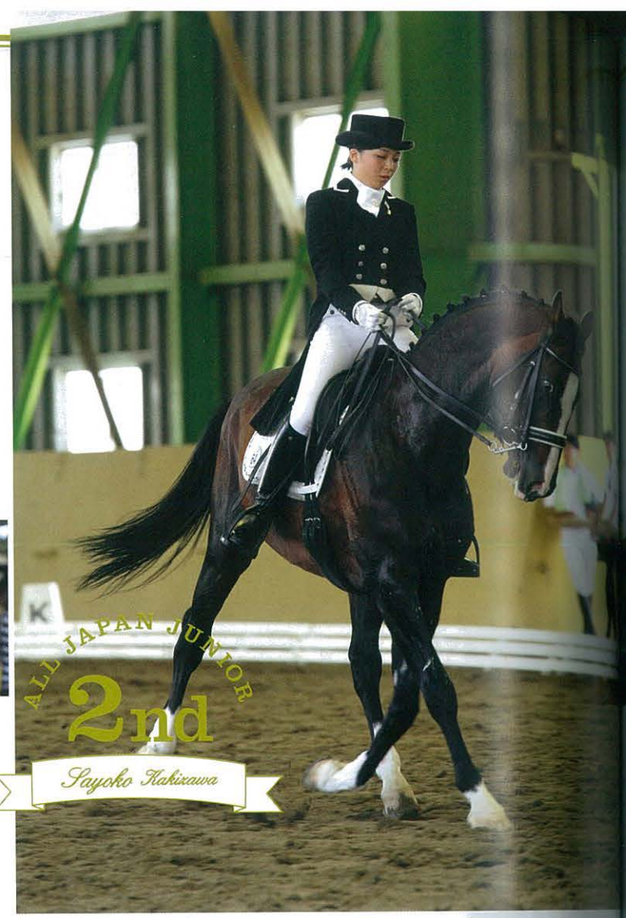
今後の目標は、11月の全日本馬場馬術大会だ。S1課目での出場を予定しているという。将来有望な若手選手の活躍が楽しみだ。

ALL JAPAN JUNIOR 2nd

### 柿澤小夜子&桜憧

（日本大学馬術部）

*Sayoko Kakizawa*



「まさか準優勝できると思っていなかったので、とても嬉しかったです」と語る柿澤小夜子選手。小学1年生で乗馬に出合い、中学から障害飛越競技を始めた。馬場馬術を本格的に始めたのは、日本大学馬術部に入部してからだ。

今年に入ってから今大会のパートナー桜憧とコンビを組み始め、4月から競技会に出場するようになった。自身にとって桜憧との練習は大きな挑戦でもあった。「桜憧は今まで経験した馬に比べてダイナミックに動くので、難しい部分が多くあります。けれども素直に動いてくれるので、馬場の苦手な私をサポートしてくれる素晴らしい馬だと感じています」

目立ち、馬の良さを十分に活かせなかったと言う。

「1日目は馬の得意な速歩がうまくできませんでした。2日目は少しミスはありましたが、流れに乗れたと思います」

競技場では緊張してしまい、いつもと調子が変わってしまう。できるだけ練習で乗りこなして競技に挑み、今年最後のジュニア馬場で準優勝を果たすことができた。

柿澤選手は現在大学4年生。今年は学生馬術最後の年でもある。「桜憧とコンビを組んでまだ日は

ALL JAPAN JUNIOR 3rd

### 小林彩乃&モネ

（ウィル・スタッド）

*Ayano Kobayashi*

昨年のヤングライダー選手権では5位に入賞した小林彩乃選手。今年も昨年と同じくモネとペアを組み、見事3位に入賞した。上位入賞を果たした小林選手だが、2日目の自由演技終了直後は、顔を手で覆って悔しそうな表情を浮かべていた。「緊張のせいか、曲を聞き間違えて演技で失敗してしまったんです。あと四歩毎で失敗してしまったのも悔しい。モネの調子は良かったのですが、自分のミスが多かったと反省しています」

20歳の小林選手は小学生から乗馬を始めた。障害飛越で110センチメートルを飛越できるようになった頃、もっと上達するには馬場馬術を習ったほうがいいとアドバイスを受けて小学5年生から馬場馬術を始める。以来、馬場馬術の道を邁進している。現在は大学から車で20分の場所にあるウィル・スタッドに週3回前後通い、馬場馬術選手の斎藤裕己選手の下で練習に励んでいる。

5年前からコンビを組んでいるモネは、スウェーデン生まれの中間種。「モネからはセントジョージを教わりました。20歳と高齢なので競技人生はあと少し。練習を続けて近いうちにインターメディエイトにも挑戦したいと思っています」

第37回

# 全日本ジュニア障害馬術大会 ヤングライダー選手権

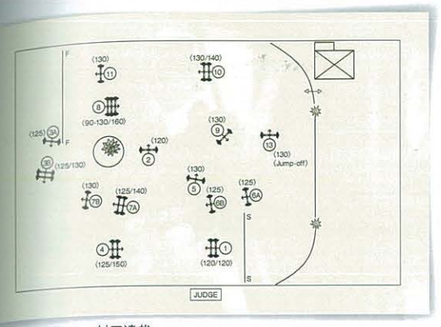
Jumping

## 駿足で圧巻の勝利

8月4日、山梨県馬術競技場で、全日本ジュニア障害のヤングライダー選手権が行われた。48人馬がエントリーし、25人馬が出場。ジャンプオフには6人馬が進んだ。

ジャンプオフでは、1番目に出走した陶器幸一選手&カナカルZ（日本大学馬術部）が減点0でゴール。以降の3選手はプレッシャーを感じたのか減点が続く。このまま陶器選手が優勝かと思いきや、5番の高橋優美選手&ヤマト（立教大学馬術部）が勢いある走行で陶器選手のタイムを4秒近く縮めて圧巻の勝利を収めた。

今大会の1位から3位までの選手は、今年の全日本障害馬術大会の中障害B出場権利を得た。ベテラン選手が出場する全日本でも若さあふれる走行を見せてほしい。




コースデザイン：村田達哉

基準表：A 238-2,2　速度：375 m / 分
全長距離 430 m　規定時間 71 秒　制限時間 142 秒
ジャンプオフ／⑨②⑧⑦ A B ④⑬
速度：375 m / 分　全長距離：320 m
規定時間：52 秒　制限時間：104 秒

ジャンプオフで減点0だったのは、優勝の高橋選手と準優勝の陶器選手のみ。4位は山田晃嗣選手&カルビノZ（関西大学馬術部）、5位は中村幸喜選手&ルーナ（乗馬クラブ ルヴァード花畑）。

ALL JAPAN JUNIOR 1st

Yummi Takahashi

## 高橋優美&ヤマト

（立教大学馬術部）

表彰式のヒーローインタビューで、「スーパーホースのヤマトを信じ、馬の走行を邪魔しないように気をつけました。優勝できて本当に嬉しい」と語っていた高橋優美選手。13歳から乗馬を始め、16歳からヤングライダー選手権に出場しているが、5回目にしてやっと栄冠を手にすることができた。

現在大学3年生の高橋選手は学業に専念するため、今大会に向けての練習は満足にできなかった。「ヤマトは本当に素晴らしい馬なので、信頼して競技に挑みました。久しぶりの競技会だったので私が少し緊張してしまい、馬に負担をかけてしまったかもしれません」

ジャンプオフは減点0を目指して慎重にいこうと思ったが、1番の陶器選手が好タイムかつ減点0でゴールしたのを見て、「攻めるしかない」と決心した。3年前の同選手権では僅差で斉藤功貴選手&明菓に敗れて2位に終わった。その時の悔しさが頭をよぎったのだろう。ジャンプオフでは勢いよく馬場に入場し、迷いのない走行で34秒14という速さでゴールした。ペアを組んだヤマトは、那須トレーニングファームの広田龍馬選手とともに北京五輪に出場したオリンピックホースだ。「素晴らしい馬に乗せてもらえて、広田さんやまわりの人々に感謝しています」と高橋選手は優勝の喜びを語る。

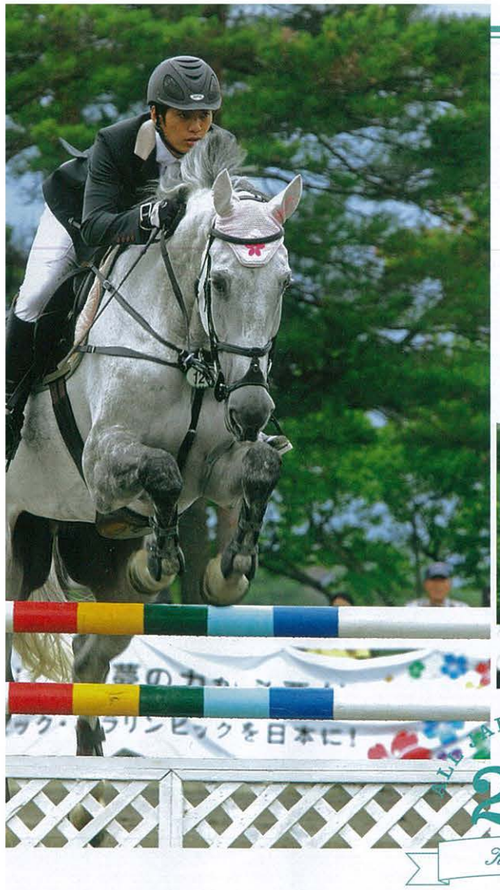
表彰式後のウィニングランでは、満面の笑みでVサインをしながら走行していた。溌剌とした笑顔を全日本でも見られるのを楽しみにしていよう。

ALL JAPAN JUNIOR 2nd

Koichi Toki

## 陶器幸一&カラカルLS

（日本大学馬術部）



ジャンプオフで1番目に走行するプレッシャーをはねのけ、見事準優勝に輝いた陶器幸一選手。「2番以降の選手に逆にプレッシャーを与えようと思い、速いタイムを狙いました」と競技を振り返る。

ペアを組んだカラカルLSは、ベルギー産のKWPN。大会1週間前に肢の状態が悪くなっていたが、当日は見事な走行をしてくれた。

陶器選手の父親は、全日本ジュニアで4回優勝し、ロサンゼルスとソウル五輪出場経験もある障害飛越選手の陶器修一氏。競技会の実況では、必ずと言っていいほど父親のことが話題にのぼる。いつもはその実況を聞いてプレッシャーを感じていたが、今回はライバルに勝ちたいという思いが強く、実況はまったく気にならなかったと言う。

中学1年生から杉谷乗馬クラブで乗馬を始め、高校からは成田乗馬クラブへ通い始めた。父親からも指導を受け、馬に乗るのが当たり前の環境で障害飛越の腕を磨いてきた。

今年4月に日本大学へ入学して馬術部に入部し、学生馬術も始めた。「学生馬術でも上位を目指して優勝に貢献できるよう頑張りたいです」と今後の抱負を語ってくれた。

ALL JAPAN JUNIOR 3rd

Yuta Akatsuka

## 赤塚祐太&アッパーアップル

（座間近代乗馬クラブ）

昨年のヤングライダー選手権では初出場で4位だった赤塚祐太選手。今年は3位と順位を上げることができた。「アッパーアップルは速い馬なのでスムーズに走行すれば問題ないと思いました。反省点は、障害を見失ってしまってタイムをロスしてしまったことでしょうか」

3年前からペアを組んでいるアッパーアップルは、オランダ産のKWPN、12歳のセン馬だ。「指示に素直に従ってくれる馬なので、第1走行では馬を信じて思いきって走行しました。7歩か8歩を選択するところが難しかったのですが、馬のおかげで減点0で戻ってこれました」

競技会前に馬の体調が悪くなり、ぶっつけ本番で第1走行を迎えたが、1番の高順位をこなすことで1番の全日本障害馬術競技会の出場権利を獲得した。

復し、大会1週間前にようやく調整することができたという。

赤塚選手が乗馬を始めたのは中学3年生の時。乗馬クラブへ通っていた妹の影響で乗馬に興味を持ち、体験乗馬ですっかりはまってしまった。現在大学4年生で、週3～4回座間近代乗馬クラブへ通っている。

「全日本障害バートI中障害Bの出場権利が獲れたので、優勝目指して頑張りたいです。1月の全